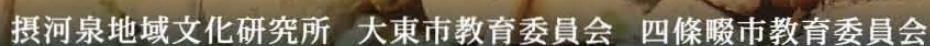


河内 飯盛城跡 続日本  
100名城  
iimori-jo castle  
2018

iimori-jo castle

2018







## 飯盛と堺 ふたつの首都

天野忠幸(天理大学准教授)

永禄3年(1560)、三好長慶は弟の三好実休・安宅冬康・十河一存を率いて、南近畿を支配する畠山高政とその重臣の安見宗房、そして根来寺を打ち破り、河内を攻略した。長慶の重臣である松永久秀は大和を平定し、久秀の弟の内藤宗勝は丹波から若狭や丹後へ攻め込み、日本海方面へ進出する。

近畿と四国にまたがる巨大な版図を手に入れた長慶は、家督を継いだ嫡男の義興に芥川山城(大阪府高槻市)を与え、自らは飯盛城(大阪府大東市、四條畷市)を居城とした。長慶は入城直後から、三好氏の祖先である源義光が元服した由緒を持つ園城寺の境内にある新羅社を勧請することを計画する。永禄4年(1561)には、当時「天下」と呼ばれた五畿内を手中に収めたことを言祝ぐ「飯盛千句」が開催された。

長慶は大御所として、当主の義興に様々な指示を行う一方、重臣の久秀は三好氏の法廷に訴えた原告に、「飯盛」の裁許を仰ぐよう伝えている。すなわち、飯盛城は三好氏の霊廟であり、三好領国の政治的首都として位置づけられたのだ。

その飯盛城の麓には、野崎以外に顕著な村落はなく、城主や家臣が住んだ居館の跡も見当たらない。宣教師の書簡や記録によると、彼らは山上に住んでいたようだ。長慶は芥川山城でも飯盛城でも、城下町を整備しようとした形跡がない。三好氏は経

済や流通に興味がなく、遅れた権力だったのだろうか。

実は、長慶が経済的な機能を担わせようとしたのは、国際貿易港として繁栄する自治都市堺であった。父の元長が自害した法華宗の顕本寺を位牌所として特権を与え、元長を弔う菩提寺として臨済宗の南宗寺を建立する。顕本寺の教線は、京都・尼崎・堺・兵庫から東シナ海の種子島へと広がっていた。また南宗寺の本山は、堺の豪商たちの多くが帰依した大徳寺で、大徳寺は琉球の寺院と交流を持つなど、両者は国際貿易を行う上で密接な関係にあった。

三好氏の堺における寺院の保護政策は、その宗派の教線の広がりや檀那、すなわち、流通や貿易を強く意識したものであった。このため、堺を代表する「会合衆」は、三好氏と関係を持つ臨済宗・法華宗・日蓮宗を信仰する豪商たちに占められていく。

また、キリスト教宣教師が「堺ゴベルナドール(Governador)」と呼んだ堺代官には、三好氏の譜代家臣である加地久勝を配置している。

長慶が目指したのは、現代日本のような東京一極集中ではなく、アメリカや中国、ドイツ、インドなどのように、政治的機能(政府、議会)と経済的機能(証券取引所)を別の都市におく多極的な領国経営であったのだ。



## 本拠地の移動

天野忠幸

三好長慶の政策で、他の戦国大名と異なることの一つに、居城を次々と移していったことがある。生誕地と考えられているのは、芝生城(徳島県三好市)である。しかし、幼少期を過ごしたのは、曾祖父の三好之長の菩提寺であり、父の三好元長が保護した見性寺がある阿波守護所の勝瑞(徳島県板野郡藍住町)であろう。

長慶は千熊丸と呼ばれた少年時代の天文2年(1533)以後、近畿地方で活動することになるが、その際の居城はよくわからない。成長し青年となった天文8年(1539)、父の仇である細川晴元と抗争の結果、長慶は越水城(兵庫県西宮市)を得た。越水城は廣田神社の背後の丘陵に位置するが、膝下に西国街道を取り込んでおり、西宮神社の門前町で宿場町や港町としても栄える西宮を、事実上の城下町としていた。長慶は越水城に腰を据え、当時「摂津下郡」と呼ばれた神戸市須磨区から吹田市までの平野部を支配下におさめ、力を蓄えていく。

そして、細川晴元に与した室町幕府の13代将軍足利義輝を京都から近江に追放した天文22年(1553)に、芥川山城(大阪府高槻市)に居城を移した。芥川山城は北摂山地の名勝である摂津峡に築かれた山城で、細川管領家の当主が在国した際の居城

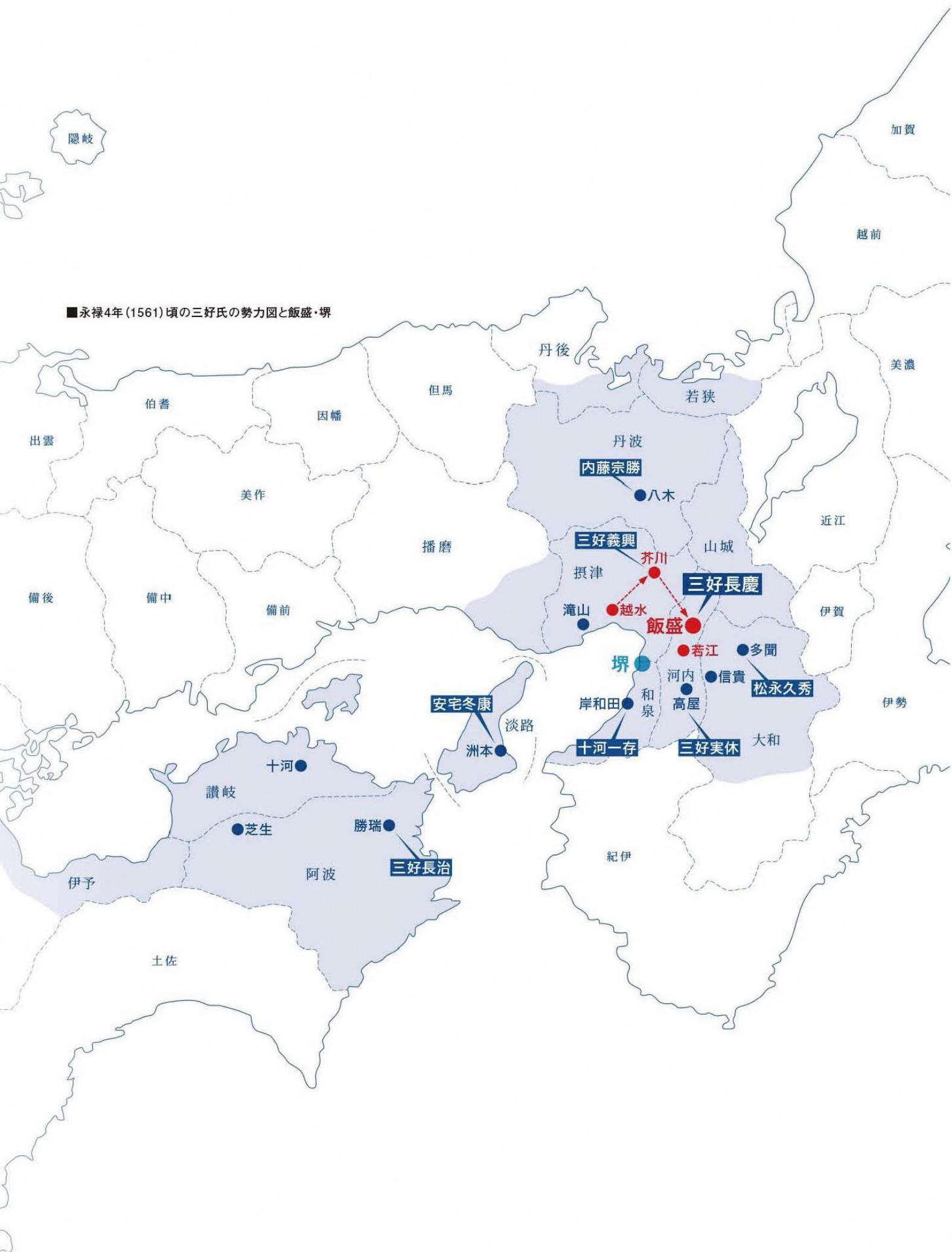
であった。長慶は当時「城山」と呼ばれたこの城より、首都京都の政治を執り行い、丹波に出兵していく。

永禄3年(1560)、長慶は河内や大和を平定すると、かつてこれらの地を従えていた木沢長政や安見宗房が居た飯盛城(大阪府大東市・四條畷市)に入った。西麓には、京都と高野山を結ぶ東高野街道が南北に一直線に通り、旧大和川が注ぎ込み大阪湾へと流れ出る深野池が広がっていた。宣教師フロイスの『日本史』によると、深野池は河川交通が盛んで、おびたしい数の船が行き交っており、飯盛城にとって事実上の内港であった。

長慶は直面する政治課題に応じて、適宜居城の移転を繰り返した。これは、戦国時代では、極めて珍しいことであった。長慶と同じように領国を拡大していた上杉謙信(新潟県上越市)、武田信玄(山梨県甲府市)、北条氏康(神奈川県小田原市)、毛利元就(広島県安芸高田市)などは、居城を移さなかった。これは大名の居城周辺に基盤を持つ譜代の家臣たちが、大名が従来の居城を去ることを許さなかったためであろう。

長慶のように居城を移した大名には、織田信長や徳川家康がいる。彼らは家臣に対して強いリーダーシップを発揮した事例と言えよう。







小林義孝(摂河泉地域文化研究所)

飯盛城からの眺望は270°の視界が開ける。京都の比叡山から北摂の山々、六甲山から淡路島、三好氏にちなむ顕本寺・南宗寺・妙国寺・善長寺などが集まる堺を経て南河内まで。三好長慶は飯盛城からこれらの支配領域を睥睨する一方、そこに暮らし活動する人々は日常的に飯盛城とそこに拠する長慶の存在を意識していたであろう。



3



# 飯盛城想像復元鳥瞰図

作画：山本ゾンビ（2014年制作、2018年加筆）  
監修：中井均、中西裕樹







## 飯盛城と三好之城 芥川山城 若江城

三好長慶は、越水城→芥川山城→飯盛城とその拠点を移した。  
長慶の飯盛城移転の後、芥川山城は三好本宗家の家督を継いだ  
嫡子・義興の居城となる。義興が早逝したため、養子・義継が  
三好家を継いだ。義継は拠点を飯盛城から若江城へと移した。

三好長慶が天下を見据えた河内最大の戦国山城

### 河内 飯盛城跡

所在地：大阪府 大東市北条・四條畷市南野

主 体：木沢長政、畠山在氏、安見宗房、**三好長慶**、**三好義継** ほか

遺 構：曲輪・土塁・竪堀・畝状竪堀群・堀切・土橋・虎口・石垣

標 高：314m(比高290m)



■三好長慶像  
(京都大学総合博物館 蔵)



■帯曲輪に残る城内最大級の高石垣



■城からの眺望は三好氏の勢力範囲を見渡せる



■虎口に残る大石による石積み



■西側に残る中段にテラスを設けた高石垣



■岩盤をくり抜いた堀切



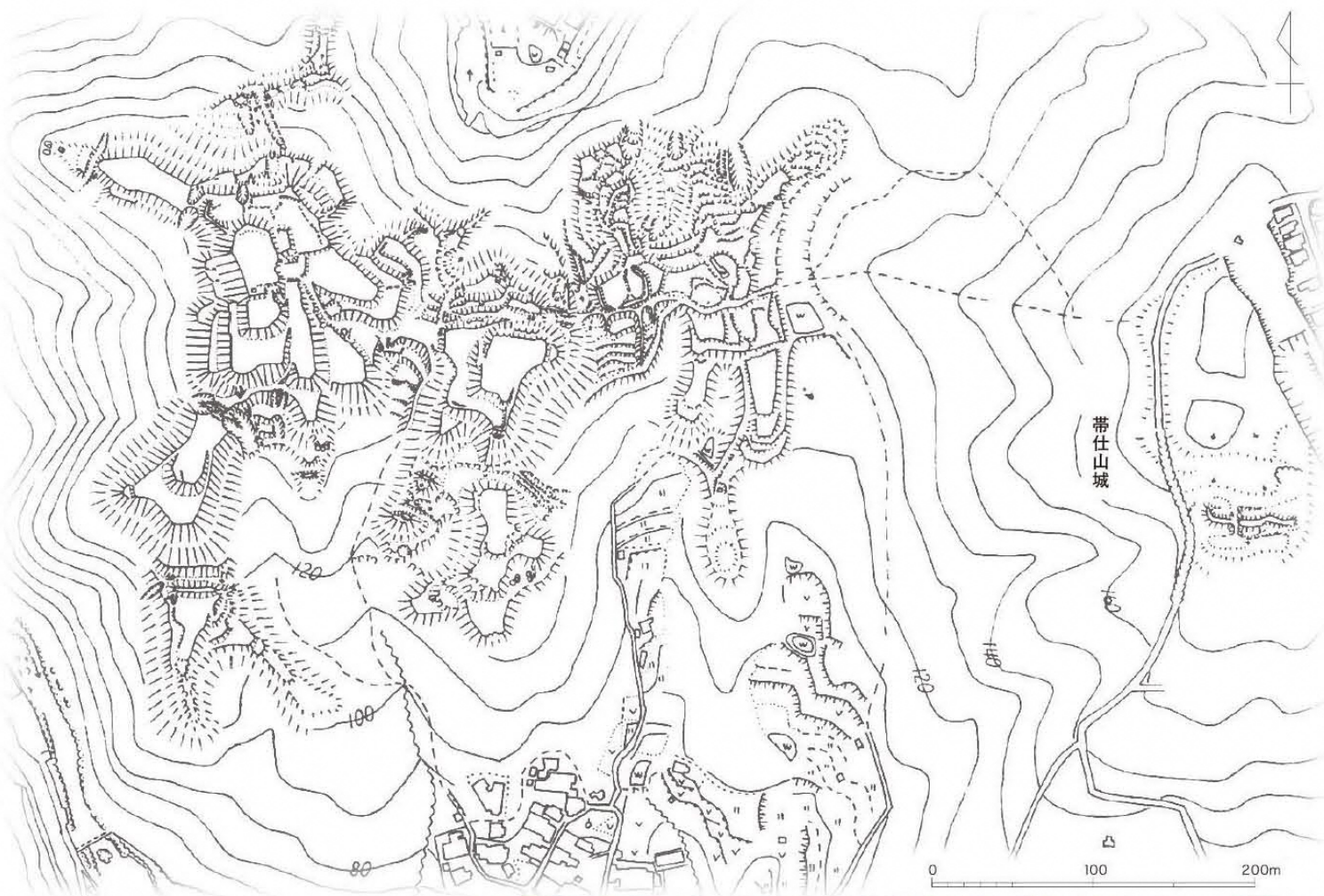
■2016年度発掘調査で御体塚下の帯曲輪石垣の下にもう一段石垣が出土した



■2017年度発掘調査で南丸から出土した建物の土壁片

■東尾根の曲輪に階段状に連なる石垣群





■芥川山城・帯仕山城 概要図 (作図: 中西裕樹)

三好本宗家の政庁、摂津最大の戦国山城

## 摂津 芥川山城跡

所在地: 大阪府 高槻市原

主 体: 細川高国、細川晴元、

三好長慶、三好義興、三好三人衆ほか

遺 構: 曲輪・土塁・竪土塁・堀切・虎口・石垣

標 高: 182m(比高130m)



■芥川山城の大手と思われる箇所に残る石垣



■芥川山城の堀切と土塁



■若江城想像復元鳥瞰図 (作画: 山本ソノビ、監修: 小谷利明、中西裕樹、東大阪市教育委員会)

三好本宗家最後の居城、信長の対大坂本願寺の拠点

## 河内 若江城跡

所在地: 大阪府東大阪市若江本町

城 主: 畠山氏、三好義継、若江三人衆ほか

遺 構: 地表遺構なし(石碑、案内板あり)



■若江城跡の発掘調査で出土した瓦片や土壁



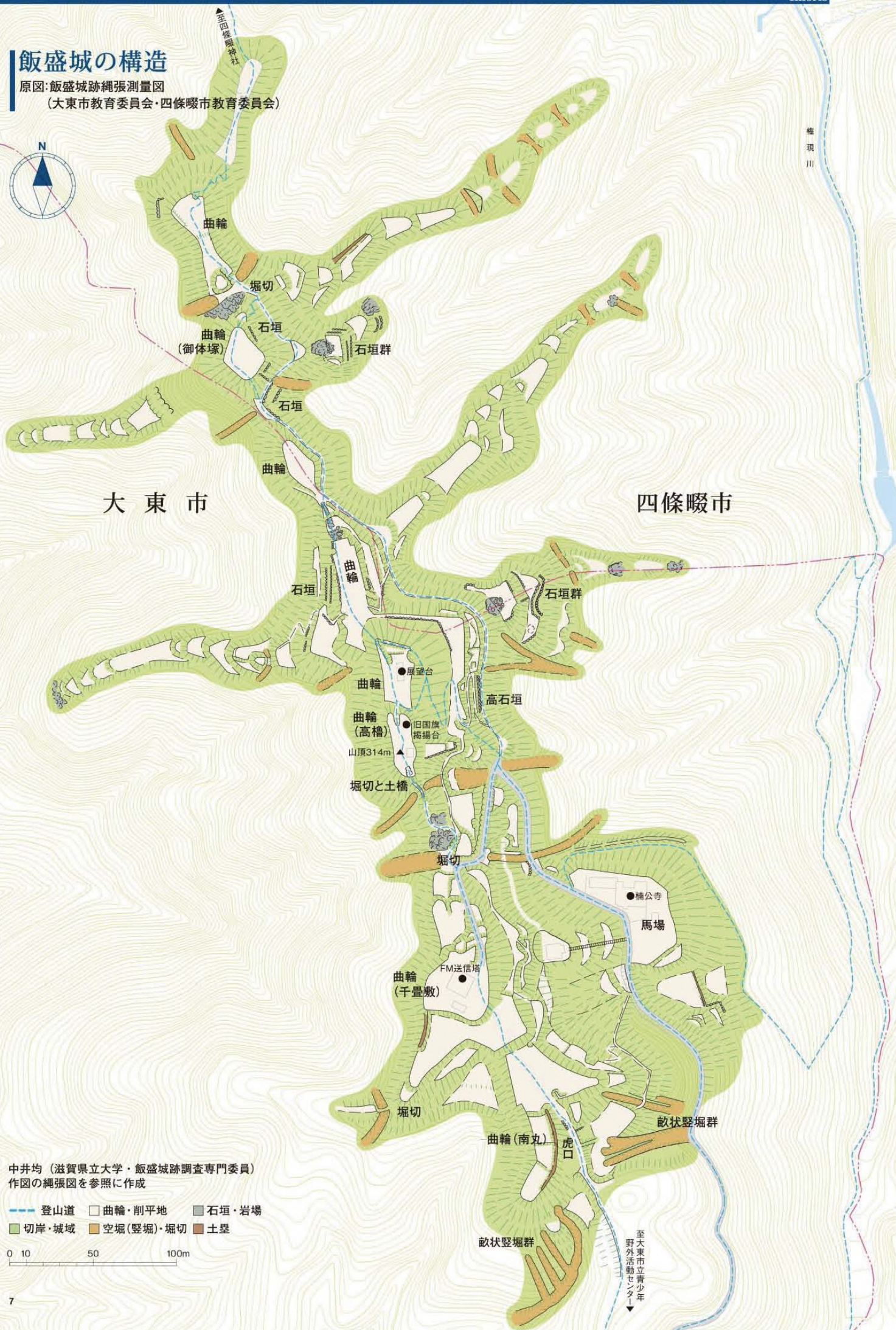
■若江城跡石碑



# 飯盛城の構造

原図: 飯盛城跡縄張測量図

(大東市教育委員会・四條畷市教育委員会)



中井均 (滋賀県立大学・飯盛城跡調査専門委員)  
作図の縄張図を参照に作成

登山道 曲輪・削平地 石垣・岩場  
切岸・城域 空堀(竈堀)・堀切 土塁

0 10 50 100m





## 三好時代の堺

吉田 豊(元堺市博物館)

堺は古代から中世にかけての長い間、住吉大社の強い影響力のもとにあったが、住吉もその一員として戦った南朝が足利氏の擁立した北朝に敗れるとともに、幕府内で勢力があった細川氏の一族から選ばれた和泉守護によって支配されるようになる。また、堺北半部の摂津国側も細川氏が守護であった。

応仁の乱後、戦国時代になると細川氏の出身地である阿波国でその家臣であった三好氏が徐々に台頭し、堺への関与も強まっていく。細川氏による堺支配は100年以上に及ぶが、三好氏についてはその半分の50年もなく、その期間の大半は細川氏や畠山氏等との勢力争いの渦中にあった。それに関わらず、堺における三好氏の影響は今に至ってもかなり残っている。特に寺院の存在が大きい。

南宗寺(なんしゅうじ)は、三好長慶が父元長のために建立した禅宗大徳寺派の寺院である。武野紹鷗や千利休が参禅したことでも知られる堺を代表する寺院である。また妙國寺は、長慶のすぐ下の弟である三好実休が、若くして戦死する前に寺地を寄進して創建されたものという。織田信長の安土城から戻ってきた大蘇鉄の伝説や、幕末の堺事件での土佐藩士11人の切腹の舞台になったことなどで知られる。

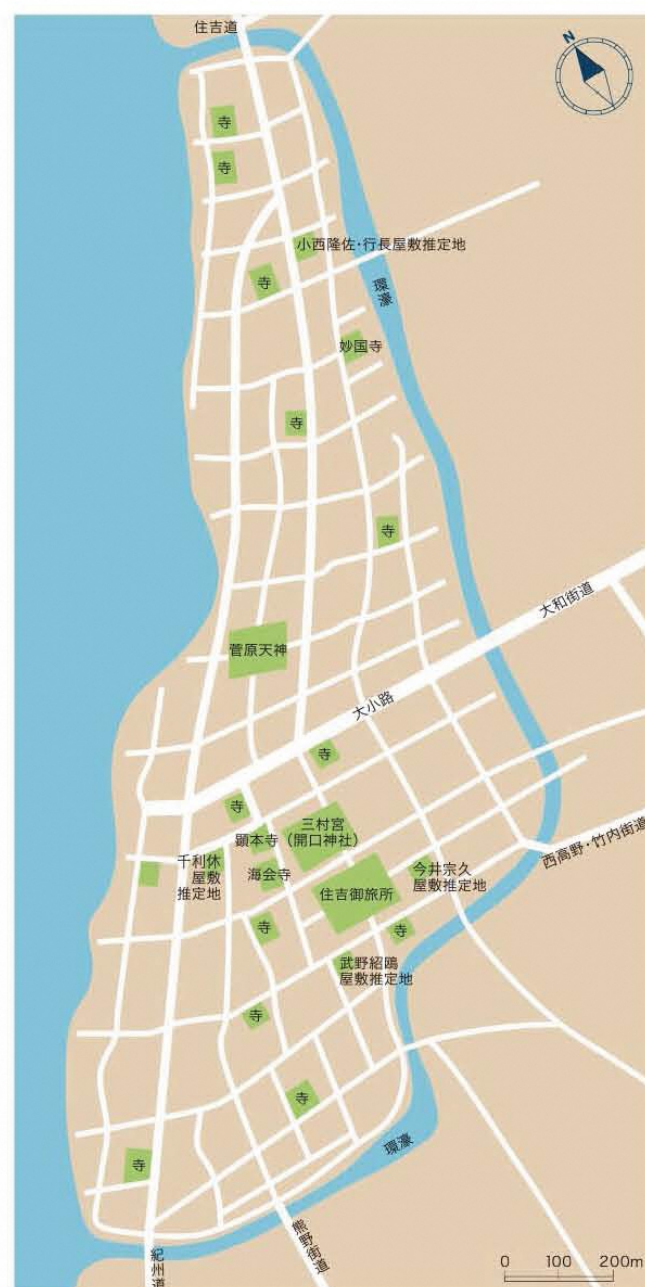
長慶・実休の父三好元長の時代、大永7年(1527)頃から享禄5年(1532)までの5年間ほど、堺公方とも称された足利義維(よしつな)のいわゆる堺幕府があった。元長の祖父の時代から堺の北西部の海岸地帯に、海船館または海船政所と称された三好氏の拠点があったという。同時代史料にはみえない伝承であるが、三好氏と堺との密接な結びつきを想起させてくれる。



■博多の町並、天文19年(1550)頃 監修:福岡市博物館等

三好時代の堺においては、鉄砲が伝来し堺にも伝えられ大量生産されたこと、イエズス会宣教師が堺に来て堺を自由都市・共和国、日本のベネチアとヨーロッパにまで紹介したことなど、日本史上でも特質すべきできごとがあった。堺全体を囲む巨大な堀が掘られたのもこの頃と思われる。

下図は、1992年に福岡市博物館でおこなわれた堺と博多展で作られた戦国時代の堺と博多のまちの推定平面図である。福岡側の展示に合わせて急遽制作したものであり、部分的には根拠の薄い推定図である。しかし大坂夏の陣以前の道路や堀などの全容は、今に至っても不明である。それでも最近になっていくつか明らかになったことがあるので、それを基に新しい推定図を次頁に記してみたい。



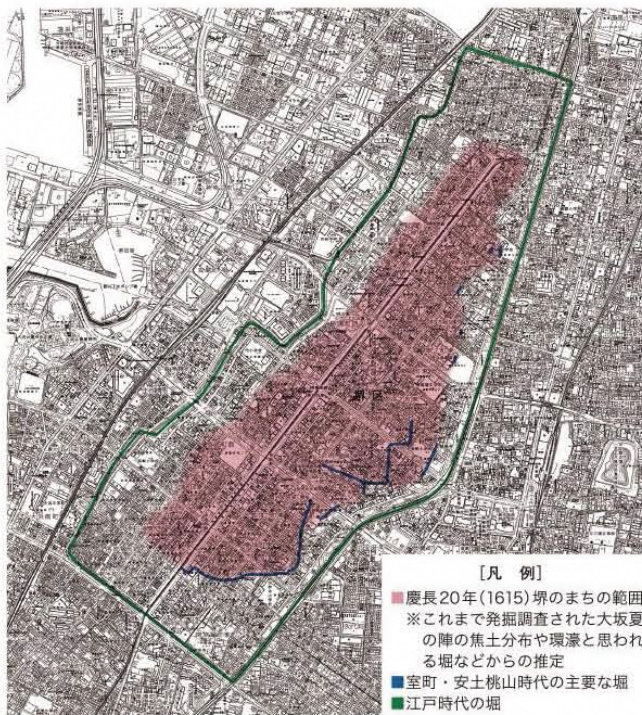
■堺の町並、天文19年(1550)頃 監修:吉田豊



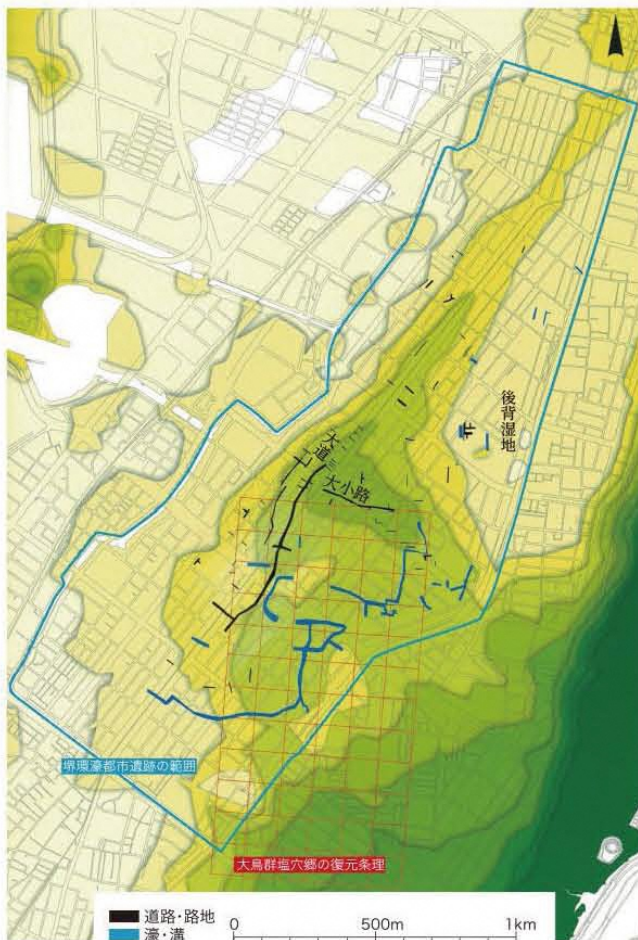


## 1615年大坂夏の陣以前の堺

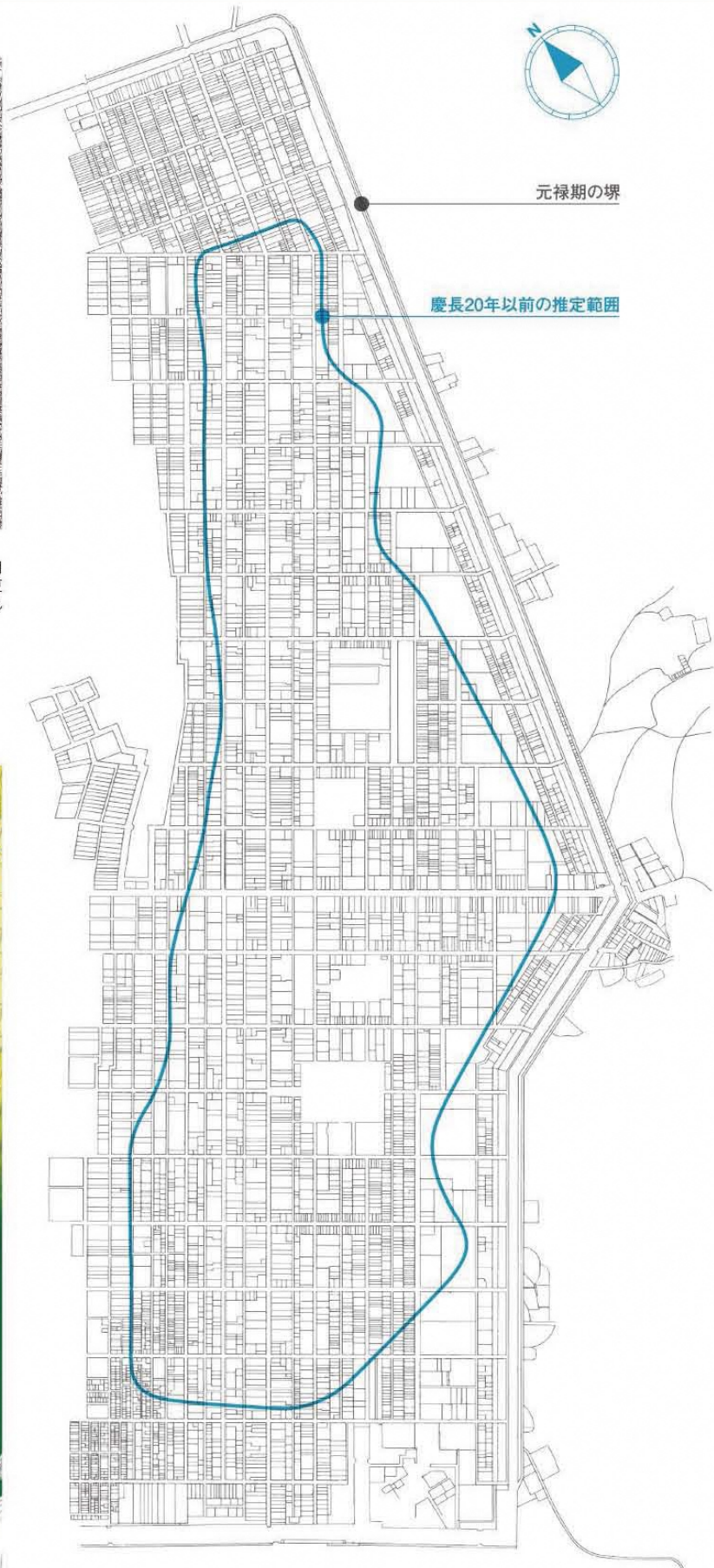
吉田 豊(元堺市博物館)



図㉔：慶長20年焼土分布範囲(『さかい利品の杜展示館案内』図録より)



図㉕：慶長20年(1615)以前の堺の町(「茶道具拝見」図録より作成)



図㉖：慶長20年以前の堺の推定範囲(監修：吉田豊、作図：山本ヅンビ)



堺の町並の姿は、大坂夏の陣の以前と以後で大きく異なる。そのことが明らかになったのは、40年余り前から現在まで1000地点を越える堺環濠都市遺跡が発掘調査された成果などによってである。堺の町がもっとも早く市街地化していった住吉御旅所(宿院頓宮)・開口神社付近などの町並みの方角が、夏の陣以前はほぼ東西南北であり、現在のように海岸線に添ったものではなかったことである。

これは、慶長5年関ヶ原の戦い以降徳川方の拠点になっていた堺に対して、大坂夏の陣最中の慶長20年4月28日(1615年5月25日)に豊臣方が町を焼き尽くしたことが原因である。その時の焼失範囲は、発掘による分厚い焼土層が至る所にみられることで分かる。

第2次世界大戦の堺空襲でも、町の北部の多くや南部の南宗寺・大安寺などいくつかの建物は焼けていないが、この焼土層の範囲はそれ以前の町のほぼ全てに近い範囲だと推定される。全面的に焼土となったために、総てを海岸線に沿った格子状の町並みに造り直すという類例のない都市大改造がおこなわれたのだが、それ以前の地図もないため都市中心部の史跡の正確な場所が不明になってしまっている。

左図④の原図は、永井正浩「堺一都市をかこむ堀を中心として」(『関西近世考古学研究』22号2014年)を基に作った堺市立歴史文化にぎわいプラザの「世界に誇る堺環濠都市遺跡」パネルである(吉田豊編『さかい利品の杜展示館案内』2015年)。



図④：住吉祭礼図屏風(堺市博物館 蔵)に描かれた堺の町並み。

図⑤は、まずベース図として『元禄二己巳歳堺大絵図、個別位置番号図』(前田書店出版部、1977年)の配置見取図を加工して使っている。そこに図④の焼土層範囲を枠線で示したものを加えた図である。

図⑥は、堺市博物館で2006年に開催した特別展「茶道具拝見―出土品から見た堺の茶の湯―」の図録等に、堺市文化財課土井和幸氏等が制作し掲載されたものである。

旧市域の中部・南部の堀や道は古代の条里制以来と思われる東西南北方向がほとんどであるが、大道(だいどう・紀州街道)やそれより西側は海岸線に沿った方角に、また北東部は後背湿地に沿った方角になっていることが分かる。

大阪歴史博物館には、発掘成果のほか上杉本洛中洛外図屏風等を参考にして、織田信長が上洛する永禄11年(1568)ころを想定した2001年製作の堺の模型がある。また、堺市博物館には、発掘成果のほか下左図⑦の住吉祭礼図屏風の右隻(堺側)等を参考にした1980年製作の下右図⑧の模型がある。住吉祭礼図屏風に描かれた景観は、かつては大坂夏の陣以前とされたこともあったが、屏風製作年代は今は1630年代頃とされるようになっており、少なくとも堺側の景観は製作年に近い頃と考えられるため、この模型もその頃のものとするべきであろう。

安土桃山時代の初めから江戸時代初期の70年ほどの期間は、堺の町が都市景観的にもっとも発展した時期と思われるが、そのことが2つの模型を比較してよく分かる。



図⑧：住吉祭礼図屏風等を基にした堺町並復元模型  
(「堺市博物館 総合案内」図録より 堺市博物館 蔵)



# 飯盛と堺 年表

吉田豊／天野忠幸

|                |                                                                                                              |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1391年(元中8/明德2) | 12月、明徳の乱で堺の山名軍、大内義弘に敗れる。これ以前、山名氏清は和泉国守護所を府中から堺に移したという。                                                       |
| 1408年(応永15)    | 8月、細川氏(頼長・基之)、それぞれ和泉国(上・下)守護に。                                                                               |
| 1469年(応仁3/文明1) | 遣明船が、南海路(土佐)を経由して堺に初めて入港(3隻のうち幕府船と細川船で、大内船を除く)。この後、堺を発着港とする。                                                 |
| 1484年(文明16)    | 会合衆(かいごうしゅう)(十会合)の初見。『蘇軒日録』(堺・海会寺住職の日記)による。                                                                  |
| 1507年(永正4)     | 8月2日、三好之長(ゆきなが、長慶の曾祖父)、細川澄元を擁して入京。一時、幕政の実権を握るが、翌年、足利義種(よしとね)、細川高国と連合した大内義興(よしおき)の上京で追放される。                   |
| 1527年(大永7)     | 3月22日、三好元長(長慶の父)、足利義維(よしつな)・細川晴元を奉じて、阿波より堺に到る。32年の元長敗死まで、堺公方(いわゆる堺幕府)が存在した。                                  |
| 1530年(享祿3)     | 12月、木沢長政が上洛し、京都で飯盛城に関する落首が詠まれる。飯盛城の初見。                                                                       |
| 1531年(享祿4)     | 8月、畠山義堯(よしとか)が三好遠江守と共に、木沢長政の飯盛城を攻めるが敗れる。                                                                     |
| 1532年(享祿5/天文1) | 5月19日、義堯が大和国衆と共に、長政の飯盛城を攻める。6月15日、飯盛城を攻める畠山義堯が、一向一揆に敗れる。6月20日、一向一揆に攻められ、三好元長、堺・顕本寺で自害。8月2日、一向一揆、堺で細川晴元らに敗れる。 |
|                | 8月24日、法華宗徒らが山科本願寺を攻略する。証如は大坂に逃れる。                                                                            |
| 1533年(天文2)     | 6月20日、三好長慶(満11才)、本願寺と晴元との和睦を斡旋。9月23日、長慶は瓦林氏を破り、摂津の越水城を攻略する。                                                  |
| 1536年(天文5)     | 木沢長政が飯盛城を畠山氏に譲与する。                                                                                           |
| 1539年(天文8)     | 8月12日、長慶が越水城(西宮市)に入城する。                                                                                      |
| 1542年(天文11)    | 3月17日、木沢長政が太平寺の戦いで討死する。                                                                                      |
| 1543年(天文12)    | 1月26日、飯盛城が落城し、木沢一族が牢人となる。                                                                                    |
| 1546年(天文15)    | 8月20日、長慶が堺会合衆の斡旋で細川氏綱と和睦し撤兵。                                                                                 |
| 1549年(天文18)    | 11月5日、来日したサビエルは、鹿児島からマラッカの司令官宛に、「堺は日本の最も富める港で国内の金銀が最も多く集まる所」と報告する。                                           |
| 1551年(天文20)    | 遊佐長教が殺害され、その家臣の安見宗房が下郡代として飯盛城に在城する。                                                                          |
| 1552年(天文21)    | 2月10日、安見宗房が飯盛城で上郡代の萱振賢経を殺害。                                                                                  |
| 1553年(天文22)    | 8月25日、長慶は芥川山城(高槻市)を接收し居城とする。                                                                                 |
| 1556年(弘治2)     | 6月15日、長慶が堺の顕本寺で、父元長の二十五回忌法要をおこなう。<br>7月、長慶は元長追善のため、堺で南宗寺の建設を始める。                                             |
| 1557年(弘治3)     | 12月26日、筒井順慶が飯盛城の安見宗房を頼る。                                                                                     |
| 1558年(弘治4)     | 2月21日、安見宗房が飯盛城から出陣し、大和に攻め込む。                                                                                 |
| 1559年(永祿2)     | 7月、三好長慶の攻撃を受け、安見宗房が飯盛城に籠城する。<br>10月18日、イエズス会宣教師ヴィレラ、堺に到着。<br>この後、63年ころまで延べ1年半ほど堺に滞在する。                       |

■「飯盛城」関係 □「堺」関係

|             |                                                                                                                                                                              |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1560年(永祿3)  | 1月、長慶がヴィレラの布教許可を幕府に斡旋する。<br>10月24日、長慶が飯盛城を攻略する。畠山高政らは堺に敗走する。同27日、実休、河内高屋城を攻略する。<br>11月13日、長慶、飯盛城を居城とする。<br>河内に続き、11月には久秀により大和も平定する。                                          |
| 1561年(永祿4)  | 5月27日、長慶が飯盛千句を催す。<br>8月17日付、堺発ヴィレラより、「この町はベネチアの如く執政官に依りて治めらる」と報告される。                                                                                                         |
| 1562年(永祿5)  | 3月、三好実休が畠山高政らにより久米田(岸和田市)で戦死。これ以前、堺・妙國寺建立用の土地を寄進するという。<br>8月、堺発、ヴィレラより、堺の「町は甚だ堅固にして、西方は海を以て、又他の側は深き堀を以て囲まれ、常に水充滿せり」(環濠の初見)                                                   |
| 1563年(永祿6)  | 8月25日、長慶の嫡子 義興(よしおき)病死。                                                                                                                                                      |
| 1564年(永祿7)  | 1月22日、三好義継が長慶の養子として上洛する。<br>4月頃、結城左衛門尉の求めにより、ヴィレラはロレンソ修道士を飯盛城に遣わし、三好家の家臣、三箇城主三箇サンチヨや池田シメアンなど70~500名をキリシタンにした。<br>7月4日、長慶が飯盛城で病死する。                                           |
| 1565年(永祿8)  | 5月19日、三好義継・三好長逸・松永久通が、將軍 足利義輝を討つ。<br>7月5日、三好義継の奏請により、イエズス会宣教師ヴィレラとフロイスを京都より追放。堺へ避難する。<br>11月15日、三好三人衆が飯盛城に登城し、松永久秀の排除を三好義継に迫る。                                               |
| 1566年(永祿9)  | 5月23日、松永久秀が堺に入り、畠山高政と連携する。<br>5月30日、三好義継・三好三人衆ら、松永久秀を堺に攻撃。会合衆が仲介し、久秀は大和に遁れる。                                                                                                 |
| 1567年(永祿10) | 2月26日、三好義継は三人衆と不和になり、堺にいた松永久秀を頼って堺北庄材木町に入る。<br>8月25日、飯盛城を守る松山与兵衛尉が、三好三人衆方から松永方に寝返る。<br>9月6日、三好三人衆が飯盛城を奪還する。<br>9月16日、飯盛城を守る松山安芸守が、三好三人衆方から松永方に寝返る。<br>10月21日、三好三人衆が飯盛城を奪還する。 |
| 1568年(永祿11) | 3月、日珥による三好実休の七回忌に、その妻たちが阿波から堺に。日珥の父・兄等の油屋一族が、妙國寺を建立。<br>9月26日、織田信長が足利義昭を擁して入京する。<br>10月1日、堺に矢銭2万貫、大坂本願寺に5千貫を課す。<br>10月8日、三好義継が飯盛城に入城する。                                      |
| 1569年(永祿12) | 1月6日、足利義昭が京都に攻め寄せた三好三人衆らを破る。<br>1月9日、信長が入京し、堺が三好三人衆を支援したことを責める。堺、2万貫を納める。                                                                                                    |
| 1570年(元龜1)  | 9月、この頃までに三好義継が飯盛城から若江城に移る。                                                                                                                                                   |
| 1571年(元龜2)  | 7月4日、南宗寺で三好長慶の七回忌がおこなわれる。                                                                                                                                                    |
| 1573年(天正1)  | 11月16日、織田信長が若江城の三好義継を滅ぼす。                                                                                                                                                    |

表紙画像:

■飯盛城想像復元鳥瞰図 ■飯盛城石垣

■ファン・ラングレン「東アジア図」1596年、原図より北を上にして日本部分のみを抜粋(社団法人OAG・ドイツ東洋文化研究協会 編集・発行『西洋人の描いた日本地図』図録より)  
オランダ人のファン・ラングレンが製作した「東アジア図」は、ポルトガルの大司教の秘書としてインドのゴアに滞在したファン・リンスホーテンが1596年に刊行した「東方案内記」に掲載された。現在のインドシナ半島、インドネシア、フィリピン、中国、台湾、琉球そして日本(西日本のみ)が描かれている。日本では特に、港町や宣教師が布教に従事した地が記された。

「河内飯盛城跡2018 -飯盛と堺-」 2018年(平成30)11月25日発行

■監修: 中井均(滋賀県立大学教授 飯盛城跡調査専門委員) 中西裕樹(飯盛城跡調査専門委員)

■編集: 摂河泉地域文化研究所

■デザイン・イラスト: 山本 ソンビ(山本書院グラフィックス)

■発行: 摂河泉地域文化研究所 大東市教育委員会 <http://www.city.daito.lg.jp/> 四條畷市教育委員会 <http://www.city.shijonawate.lg.jp/>